

## 平成30年度 東洋学研究情報センター機関推進プロジェクト実施報告書

### 1. プロジェクト名

歴史都市デリーの都市開発と遺跡保存—2017年度調査公開の拡充と衛星画像解析による遺構確認

### 2. 申請研究者

(氏名) (所属・役職)  
梶屋 友子 (東京大学東洋文化研究所・教授)  
共同研究者

(氏名) (所属・役職)  
深見奈緒子 (日本学術振興会カイロ研究連絡センター・センター長)  
山根聡 (大阪大学・教授)  
山根周 (関西学院大学・准教授)  
山田協太 (筑波大学・准教授)  
穴戸克実 (鹿児島県立短期大学・准教授)  
岡村知明 (国士舘大学・共同研究員)  
アーデル・シャラビー (エジプト国立リモートセンシング・宇宙科学研究所・准教授)

### 3. 研究期間

平成30年4月1日から平成31年3月31日(1年間)

### 4. プロジェクトの趣旨、全体計画(400字程度)

1959年から61年実施の東京大学インド史蹟調査団の資料に関する一連の調査研究を通して、デリーの中世のイスラーム建築遺構について、同調査団写真資料の重要性と、60年代からの都市開発による遺構の変容を明らかにすることが目的である。その経緯は①平成27年度共同研究「歴史都市デリーの都市開発と遺跡保存—東京大学インド史蹟調査団の再評価からの再評価からの中世インド建築史」で遺構現況を調査②その結果を平成28年度重点プロジェクト「同—東京大学インド史蹟調査団におけるHPの改訂と2015年度調査結果の立ち上げ」でGoogle Mapsを用いて日英で作成③平成29年度重点プロジェクト「同—デリー補充調査および2015年度調査公開の拡充」で、公開精度を上げ、さらに2018年3月に補充調査を行う。④平成30年度センター機関推進プロジェクトでは、平成29年度の補充調査の追加を主目的とし、1960年代の衛星画像を解析することにより、遺構の明確な位置を把握することとした。

### 5. 今年度の研究実施状況(400字程度)

公開の拡充として以下の点を進めた。なお、グループ内での打ち合わせは4月20日に行い、4月21日、5月31日に行い、そのほかの相談はメールにて行った。

①『デリー第1巻』に記載された385件に対して、2015年および2018年の調査結果をGoogle Mapsに掲載した。その内容は、a.調査団撮影写真、b.2015年2018年写真、c.図面、d.『デリー第1巻』個別説明(日英)、e.2015年・2018年の状況(日、現存状況のみ英訳)とした。

②東京大学インド史蹟調査団のガラス乾板写真(全インドイスラーム遺跡対象)をデジタル化した。

③Monuments of Delhi(1917出版)掲載の1317件、Delhi The Built Heritage, A Listing(1999出版)掲載の1202件(両者とも近世、近代の遺構も含む)との照合を行い、東京大学インド史蹟調査団が対象とした遺構を明確にした。

衛星画像の解析についてはタイトルに1960年代の衛星画像の解析をあげたが、NASAのコロナを検討した結果、雲がかかっている地上が判別できないことが明らかとなり、この点は断念した。

インド国立博物館での展示会が開催された。デリーの中世イスラーム遺跡に関して、1959年62年の状況と2015年18年の状況を写真比較した展示会で、インド国立博物館が会場となった。共同研究者深見が参加して、オープニングセレモニーに続き、写真解説を行った。国立博物館やINTACHのメンバーをはじめ、MOSAI主催の国際会議開催中であったため、インド、日本そのほかの国の研究者が参加した。

## 6. 今年度の研究成果の概要(400字程度)

2018年3月の落ち穂拾いの調査結果を、2015年調査の結果と合わせてGoogle Mapsに掲載することができた。これにより、デリーに掲載された385件のうち、現存261件、非現存113件(うち27件についてのみ遺構の非現存を確認、86件については、当該敷地に存在しておらず遺構の消滅に関する証拠はつかめていない)を確認した。その様子をGoogle Mapsに記載することができた。消失の多くは、60年代以後の急速な都市化にあることがわかった。現存する261件のうち、135件は保存建造物、67件は宗教的に利用、40件は個人が住宅等に利用している。とはいえ、状態の良いものは少なく、今後の歴史遺産保存に対して問題を投げかけることができた。

2018年11月14日から3日間に渡って開催された“Unearthing Lesser-Known Linkage; India and Japan”の国際会議で、本研究の経緯と成果について発表を行った。

2018年11月にインド国立博物館で開催された展示会によって、デリーの中世のイスラーム建築遺構について、同調査団写真資料の重要性を日本国内だけではなく、インドでアピールすることができた。また、写真によって、60年代からの都市開発による遺構とその周辺の変容を明らかにすることができた。